

北海道放送

活動名	ニュースができるまで・小学校授業支援
実施期間	令和 5 年 12 月 8 日、12 月 13 日
実施回数	学校 2 回

【実施学校】 札幌市立美香保小学校、北海道教育大学附属札幌小学校

【事業実施の成果・課題】

今回は学校に訪問して動画やスライドを見てもらい、ニュースや番組について説明をしたが、児童は座ったままで動画等視聴するという時間が大部分になってしまい、興味や関心を最後まで持続させることに苦勞した。その対策の一つとして、そして放送のリアルを少しでも感じてもらいたいということで、取材に使っているショルダー型のカメラを持参して、子どもたちに見てもらい、また実際に持ってもらってその重さやファインダーをのぞきこんでもらうなどの体験をしてもらった。さらに今回は講師がアナウンサーだったこともあり、実際のニュース原稿を配布して読んでもらったり、発声練習を一緒にやるなど、ただ座って授業を受けるだけではなく、放送局の出張授業ならではの内容や体験を盛り込むことが必要と感じた。

「ニュースができるまで」の動画や「テレビ番組ができるまで」のスライド・動画がメインで、普段あまりテレビに接していない小学生が興味をもって見てもらえるか心配したが、想像以上に集中して視聴してくれた。またポイントをノートにメモする児童も数多く、教科書だけではなかなかわからない報道やテレビ制作の現場についてよりリアルに学んでくれたと思われる。

【事業担当者の感想】

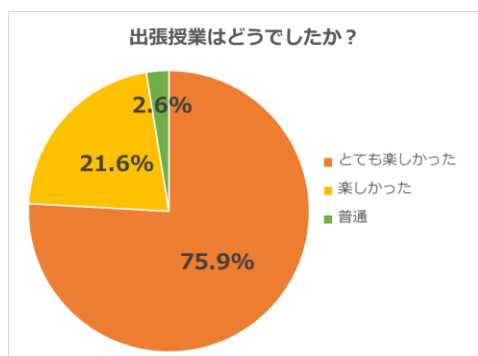
実施校の選定において、小学校 5 年生の指導要領の内容に即した動画を視聴してもらうという支援授業の内容だったので、まずは学校の窓口となる教員に趣旨を説明して、動画をみてもらった上で可否を判断してもらったり、事前に学校に訪問しての打合せが必要など、それなりの手間や段階が必要だったが、授業に即した内容ということで概ね好意的に受け入れてもらった。ただ「情報」の単元の授業時期がどの学校もほぼ同じなので、12 月の短い期間内に実施が集中し、作業が錯綜した面はあった。実施にあたり 1 校はすでに社会の授業でこの「情報」の単元を終えていたが、もう 1 校はまだ終えておらず出張授業のあとに、この単元を学習するということがあった。授業の前と後、どちらがより学習効果が高いのかはわからないが、実施のスケジュールを策定する場合にはそういったことも考慮する必要を感じた。

内容的には、いかに子どもたちに興味をもってもらい、またニュースや番組に親しみをもってもらい、その後の視聴習慣にもつながっていきたいという思いから、用意したプログラムがやや多く、2 コマ分 1 時間半で途中休憩などもなく実施してしまい、子どもたちからは「ちょっと大変だった」という感想もいただいた。次回以降実施する際には、途中で休憩を挟んだり、席を立って体を動かしたり、体験する

プログラムをより多く組み込む必要性も感じた。ただ事後のアンケートでは、「とても面白かった」「面白かった」で 97% 以上、「つまらなかった」という回答は皆無だったので、ある程度、子どもたちにも喜んでもらい、またよりテレビのニュースや番組に親近感をもってもらえたものと思っています。事前の打合せで、動画などを見せるのでそのスペースとモニター・PA を用意してください、とお願いしたところ、1 校は体育館でステージ上にスクリーンを設置、もう 1 校はランチルームでスクリーン投影となった。どちらも大きな支障はなかったものの、体育館では暖房が入っておらず、寒いので暖房を入れるとその音が気になるなどの苦労があった。またもう 1 校では、PA が不調で使えず、マイク無しの地声で実施し、動画の音声もこちらが持参した会議用のスピーカーで聞かせることとなるなど、学校側の設備のコンディションへの対応もやや苦慮することがあった。そういった面も含めて、学校側と事前に綿密な打ち合わせの必要性も感じた。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

実施後、参加した児童・担当教諭にアンケートを実施（2 校分合算）。



参加した児童計 116 名に「出張授業はどうでしたか。」ととても楽しかった・楽しかった・普通・つまらなかった・とてもつまらなかった の選択肢でアンケートを実施したところ、113 名、97.4%の児童が「とても楽しかった」、「楽しかった」と回答した。

「印象に残ったこと」、「感想」、「担当教諭からのアンケート結果」の自由記述は下記の通り。

<印象に残ったこと>

- ・テレビ局の人たちはいろんな作業を行っていて説明してくれた人が一番正確性が大切だと言っていたことが心に残りました。アナウンサーの人は視聴者さんに聞こえやすくするためにたくさんの工夫をしていて、またディレクターさんやカメラマンさん、音声の調整をする人など、たくさんの役割を持った人がいると聞いたことも印象に残りました。
- ・取材や編集をするのに 3 日間くらいかかっていることです。テレビでは 5 分くらいしか流れないのでそのために 3 日間もかけていると聞き、とても驚きました。
- ・アナウンサーは資格がいらない事。ニュースや番組を作るのに沢山の人が協力していたこと。
- ・母音で早口言葉を練習してから普通の言葉で早口言葉をするといえるようになったこと。
- ・熱血太郎

<感想>

- ・私たちは 1 時間のテレビを簡単に見るけど、裏側では何時間もかけて作っているということにビックリしました。今度からニュースを見るときは、今回学んだことを忘れずにじっくりとニュースを見ようと思いました。今回はニュースのひみつを教えてくれてありがとうございました。

・カメラを持てたり、実際にランクイ〜ンをやってみたり体験授業がおもしろかったので楽しかったです。「熱血太郎」では、カメラマンが撮るときに意識してることや、スタジオの役割などがわかりました。

・今回の授業はすごい貴重でカメラを実際に覗いたりすることができて嬉しかったです。また、今日ドキッ! の撮影の撮っている裏側を見たりラジオなどで読む資料を実際に読むこともできたのでとても楽しい時間でした。

<担当教諭からのアンケート結果>

・実際に現場で使われている器具や用具が目の前で見られたのは、子どもも大変よろこんでいました。また、体験した話など、リアルな言葉をきいて、目を輝かせる子どもの顔が印象に残っています。構成については座学と活動の時間を交互にとったり、休憩の時間があると子どもがより集中して取り組めると思います。

・見たことがあるテレビ番組の制作の様子を知ることができ、子どもたちも関心をもって参加することができました。また、実際にお仕事されている方の体験を聞くことができたことも貴重でした。アナウンサーの呼吸法や練習を体験したり、カメラを持たせていただけたことも、子どもたちは喜んでいました。また、動画を見る時間が多く、内容も重なっていたところがあったので①全体の流れ② 1 つのポイント（カメラの撮影の仕方、編集の仕方など）をくわしくという形でもよかったかもしれません。“体験できる”ということが貴重なので、動画に合わせてアナウンスをしてみたり、発音練習をしてみたり、テレビの一つのコーナーに参加している気分になったり…という体験がとてもよかったです。